



さくら

〈笑顔輝く宮床中〉 〈風格のある宮床中〉



〔校木:高野槇〕

【教育目標】
 豊かな心を持ち
 自ら学び共に高め合う
 生徒の育成

【校訓】
 自立・共励・躍進

新たな一年が始まりました。“今年こそ…”の意気込みで、夢実現へ一歩前進！ 生徒も職員も“笑顔輝く宮床中”を目指して

令和3年度の宮床中学校がスタートして、間もなく3週間が過ぎようとしています。新たな中学校での生活に目を輝かせている1年生の姿や、昨年度とは違う校舎・教室で気分を一新し、行事や係活動に積極的に取り組むエネルギーな2・3年生の姿が校内で見られ、休み時間の廊下やホールは、笑顔で語り合う生徒の活気にあふれています。コロナ禍で、制約の多い学校生活は今後とも続きますが、感染防止対策に努めながら、生徒一人一人の可能性への挑戦を、教職員が一丸となって支えてまいります。今年度も、保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

〈4/9(金)第75回入学式〉…校長式辞より抜粋



136名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。新型コロナウイルスの感染防止に配慮した入学式となりましたが、その分、これまで以上に心のこもった式にしようと準備を進めてきました。(本日は同席できませんでしたが)在校生、そして本校全職員が、皆さんの入学を心待ちにしていました。

皆さんは今、中学校に入学し、呼び名も「児童」から「生徒」へ変わりました。さらに、中学校生活3年間で義務教育が修了します。「義務教育が修了する」ということは、“中学校を卒業したら、大人として行動しなさい”という意味であり、中学校3年間は、まさに「大人になる

〔式辞:阿部朋樹校長〕ための準備期間」であると、私は考えます。

本校では、『豊かな心を持ち、自ら学び共に高め合う生徒の育成』を教育目標に掲げています。その目標を達成するために、新入生の皆さんに期待し、お願いしたいことを三つ話します。

一つ目は、「自分から進んで学び、挑戦する生徒」になってほしいということです。皆さんに、一つ質問をします。「成功」の反対は何でしょうか？「失敗」でしょうか？動力飛行機を発明したライト兄弟は、飛行機を飛ばすために「失敗」はしなかったでしょうか？発明王のエジソンは、一度も「失敗」しなかったと思いますか？答えはNOです。彼らは、発明までに数多くの「失敗」をしているのです。本当の「成功」は、幾度となく「失敗」を繰り返し、その「失敗」を一つ一つ乗り越えるための「挑戦」の先にあります。いわば「失敗」は「成功」するためにあるのです。それでは、改めて質問します。「成功」の反対は何でしょうか？そうです。「成功」の反対は、「何もしないこと」「挑戦をしないこと」です。何もしなければ「失敗」はしません。しかし絶対に「成功」へも近付きません。「挑戦」しなければ先へは進めないのです。

明日から始まる中学校の授業や様々な活動では、時に間違ったり、失敗したりすることもあると思います。でも、決して恥ずかしくない必要はありません。失敗や間違いは、挑戦したこと証であり、「成功」への第一歩です。皆さんを大きく成長させる貴重な経験になります。新しく出会った友達との学び合いの中で、「わかる」ことや「できる」ことを一つ一つ積み上げて、学ぶ楽しさや面白さをたくさん感じてください。

二つ目は、「思いやりを持ち、助け合える生徒」になってほしいということです。自分勝手なわがままを言ったり、友達が嫌がることをしたりしては、気持ちのよい学校生活を送ることはできません。一人の友達のことをみんなが大切に思い、相手の気持ちになって優しい心遣いをするのが、居心地のよいクラスや学年を創ります。お互いの意見や考えの違いを認め合い、高め合うことで、自分も集団も豊かに成長していけるのです。今日から、新しい友達と支え合って楽しい中学校生活を送ってください。

三つ目は、「自分の夢の実現に向かって努力し続ける生徒」になってほしいということです。大リーグで長年活躍したイチロー選手は、どんな時でも、素振りやスローイング、ストレッチなど基礎を徹底的に繰り返す練習を最後までやめることはなかったといいます。イチロー選手は、ただひたすらに小さいことを丁寧に積み重ねることで、大きな成長につなげるという生き方を貫いてきました。「継続は力なり」という言葉もあるように、皆さんも新しい生活の中でたゆまぬ努力を積み重ね、自分自身を大きく成長させてほしいと願っています。

〔保護者の皆様へ〕私も教職員一同、お子様をお預かりした大きな責任を果たすべく、優しく丁寧に、そして、決して甘やかすことなく、指導に全力を尽くす覚悟です。私たち教職員は、生徒一人一人の可能性を信じて精一杯努力してまいります。今後とも、私たち宮床中学校と手を取り合いながら「車の両輪」となり、生徒が、変化に富むこの社会を堂々と胸を張ってたくましく生き抜いていくことができる「大人」へと育てていただきますようお願い申し上げます。



〔1年生〕中学校生活の第一歩。

4/9(金)入学式の朝



いよいよ令和 3 年度がスタートし、皆さんは、それぞれ新 2 年生・新 3 年生へと進級しました。3 年生は宮床中学校の最高学年としての、自覚と責任ある行動が求められます。さらに、卒業後の進路を決める大事な一年になります。2 年生は中堅学年として、3 年生を支え、生徒会や部活動などで活躍することが期待されます。先程までと、また皆さんの表情が変わりましたね。気持ち新たに、この式に臨んでいる様子がよく分かります。一人一人、大変頼もしく輝いて見えます。明日は、新 1 年生が中学校生活に夢や希望、そして、不安を抱きながら入学してきます。皆さんには、宮床中学校の先輩として、新入生を温かく迎え、優しく、親切に接してほしいと願います。ぜひ、これまでの中学校生活で培ってきた経験を生かし、後ろ姿で模範を示す先輩、後輩から慕われる「憧れの先輩」として、大いに活躍してくれることを期待しています。

さて、今日は、新年度の初めにあたり、皆さんに考えてほしいことを、二つ話します。

一つ目は、「**進級は自分を変えるチャンス**」「**これまでを、これまで以上に向上させるチャンス**」であるということです。人は誰でも、「よりよく生きよう」とか「夢を実現させたい」などの希望を持っています。しかし、なかなか思うようにいかなくて悩んだり、焦ったり、イライラしたり、諦めてしまうこともあるかもしれません。それでも人は、人生の節目の時に、これまでの自分を振り返り、「自分を変えたい」「もう一度やってみよう」と、新たな気持ちになることも確かです。学校の新年度のスタートは、まさしく、この節目に当たります。「過去を変えることはできないが、未来と自分は変えることができる。」皆さんも、一度は耳にしたことのある言葉かもしれません。ぜひ、この新学期のスタートをチャンスと考え、校歌の歌詞にもある「高き理想」を掲げ、「清き希望」を心に留め、「遠き未来」へとつながる『今』を、「明るく・楽しく・元気よく」、笑顔いっぱいに取り組んでほしいと思います。

二つ目として心に刻んでほしいことは、「**宮床中学校の“新しい歴史”を、皆さんの手で創る**」ということです。宮床中学校は、創立 7 5 年を迎える輝かしい伝統と歴史のある学校です。皆さんの先輩や地域の方々、多くの先生方のおかげで、地域に大切にされ、地域に支えられている学校です。しかしながら、今の宮床中学校には、伝統や歴史を守りながら、さらに良い学校にしていきたいために改善しなければ、変えなければならないこともあるはずです。何をどう、どんな方法で変えていくのか、皆さんの考えで、皆さんの行動で、皆さんの努力で見つけ、取り組んでほしいと思います。学校をよりよく変えようとする、皆さん一人一人の心の有りようが、皆さん自身を成長させ、宮床中学校の一員であることへの「誇り」を育み、高めていくものと信じます。

新型コロナウイルスの影響が、いつまで続くのかわかりませんが、今日から始まる新年度の学校生活では、失敗を恐れずに、仲間と共に『今』できることに一杯挑戦してください。学校とともに、皆さんの中にも「新しい、よりよい自分、新しい歴史」が創り上げられていくことに期待と願いを込め、式辞といたします。



大型連休(4/29(祝・木)~5/5(祝・水))を迎えるにあたって

○もうすぐ大型連休を迎えます。本校は、4/30(金)の振替休業日を含め、連続 7 日間の連休です。現在、宮城県内では新型コロナ感染者増加を受けた「まん延防止等重点措置」適用が 5/11(火)まで延長されている状況です。大型連休中も、各ご家庭で感染予防策の継続をお願いいたします。

○富谷黒川地区中総体(5/29・30)に向け、生徒の健康・安全対策を努めながら、大会で最大限の力を発揮できる状況をつくるため、富谷黒川地区の中学校全体で次の方針で部活動を行います。

- ① 5/9(日)までは校内のみの活動とし、対外試合は行わない。
- ② 5/10(月)以降の大会までの(土)(日)4 日間は、次の規定の下、対外試合を可とする。
 - ・(土)(日)連続の対外試合は行わない。練習試合は半日のみ。相手校は 1 ~ 2 校のみ。
 - ・(土)に対外試合をし、(日)に校内で練習することは可。
 - ・3 校での対外試合では、試合のないチームは、同じグラウンド・体育館には入れない。
 - ・健康チェックを行い、不安がある場合には練習に参加させない。
 - ・保護者の応援は、原則禁止。・飲食を伴う行動はしない。
- ③ 大会運営上、生徒の安全を確保するため、最低 1 試合は練習試合の機会を設ける。



“登校坂の桜に思う”〔教頭所感〕

今年は季節の移ろいが早く、桜の季節が過ぎ新緑の季節を迎えようとしています。登校坂の桜はすでに葉桜になり、校庭から臨む七ツ森の緑は、日一日と鮮やかさを増しています。

“今年の桜の花は色がきれいだった”という話をよく耳にしました。以前、桜の花を南国の人にも楽しめたいと、シンガポールに桜の木を持って行った人がいたそうです。持ち込んだ 1 年目は花が咲いたそうですが、2 年目から花が咲かなくなってしまったそうです。南の国には冬がありません。桜の木は、寒く厳しい冬をじっと耐えたからこそ、春にきれいな花を咲かせるということです。冬が無ければ花は咲かないというわけです。

また、最近では一年中店頭で並ぶイチゴは、これから本来の旬を迎えますが、ハウス栽培が主流になった現代でも、苗に冷蔵庫内で冬を感じさせることで、開花や結実につなげるのだと、以前、県南の亘理町に勤務していた時に聞いたことがありました。

今年の宮床の冬は、早い時期から雪が多く厳しい冬でした。その寒く厳しい冬のお陰で、今年の桜の花はきれいな色で咲いたのだと思います。

人間にも同じことが言えるように思います。今、世の中では、コロナ禍の厳しい状況が続いています。日々いろいろなことがありますが、皆の思いを一つにして、この苦難の時を乗り越え、きれいな花を咲かせたいものです。